



図書情報館

- 1階 予約本や自動返却の場を入り口付近に設置
- 2階 児童書コーナーと子育て支援室を併設。南吉童話にちなむ、でんでんむしをモチーフにしたおはなしコーナーも設置
- 3階 多様なメディアの閲覧・視聴、健康支援室兼講座室を併設し、生涯学習を活性化
- 4階 学術・専門・地域資料を集約し、学習や研究、課題解決をサポート



3・4階
一般開架・閲覧室



3階
ラーニングcommons
(学習・談話スペース)



2階
おはなしコーナー

「でん」

建物外周に配置するガラス張りの閲覧スペース。テラスとつながり、読書空間が充実。屋外から中の賑わいも垣間見えます。



立体駐車場

スーパーマーケットなどの民間施設

広場・公園

大屋根を多目的ホールに面して設け、屋内外を一体で利用できるようにします。イベント時には舞台も設置できます

エントランスホール(1階)

パスポートや各種証明窓口を設置。大型のデジタルウォールやタッチモニターを設置し、市の情報発信とともに、商店街や南吉ウォールペイントなどを紹介。南吉を巡るまち歩きの出発点としての機能を果たします。



多目的ホール(地下1階)

舞台と観客席が収納できます。ホール1階壁面をガラス張りにし、ロビーとの一体感を高めます。



■まち歩きを始めませんか
安城駅前では、南吉の世界が広がる、歩きたくなるまちづくりが始まっています。歩くことで楽しく、そして健康になります。次のページで、本市のウォーキングへの取り組みを紹介します。

項目	情報拠点施設	民間施設	駐車場
階数	地上5階 地下1階	地上2階	地上4階
建築面積	2427.88㎡	2138.46㎡	1533.97㎡
延床面積	9121.79㎡	2984.13㎡	6070.84㎡
駐輪場台数	240台	100台	-
駐車場台数	-	-	275台
施設内容	図書情報館、多目的ホールなど	スーパーマーケット、カルチャースクール	駐車場

■提案の概要
上図および左表のとおり。※現時点での提案内容です。実際の設計については、平成26年度に進めていき、決定します。



施設外観イメージ

特集1

賑わいへの新たな一歩

～更生病院跡地の拠点施設など、整備事業を紹介します～

図▶南明治整備課
(☎71)2245)

本市では、更生病院跡地にて、中心市街地の活性化などを目的とした中心市街地拠点整備事業を実施しています。新たな拠点施設を建設するにあたり、昨年5月から事業者を募集したところ、4グループから応募がありました。学識経験者などによる審査の結果、優先交渉権者に「清水建設グループ」を選定しました。

■新施設が目指すもの

コンセプトは「地域力を育む、健康と学びの拠点」です。健康づくりや情報発信など、多様な交流の拠点を指すとともに、中心市街地の賑わい作りや活性化を目指しています。施設だけでなく、利用者が周囲のまちにも足を運びたいくなるような整備なども進めていきたいと思います。

●あぐるバス路線も整備

施設の整備に伴い、公共交通機関や自転車・徒歩などの利用促進策を計画します。また、施設への利便性向上に、あぐるバス路線の見直しも進めています

■清水建設グループ

●構成員
清水建設株式会社名古屋支店
(代表企業/建設・設計)

- 株式会社三上建築事務所(設計・工事監理)
- スターツCAM株式会社(建設)
- 協力企業
- 株式会社丸山組(建設)
- 株式会社シミズ・ビルライフケア(維持管理)
- スターツファシリテーター
- 株式会社(維持管理)
- スターツアメニティー株式会社

■開業までの流れ

優先交渉権者と今後の進め方を協議し、基本協定、仮契約を順次締結します。そして、市議会の議決を経て事業契約を締結します。

- 本年2月 仮契約(PFI事業)締結
- 同3月 事業契約(PFI事業)締結

※優先交渉権者の構成員が設立する特別目的会社(SPC)と事業契約(PFI事業)を締結します。

●平成29年6月 開業予定

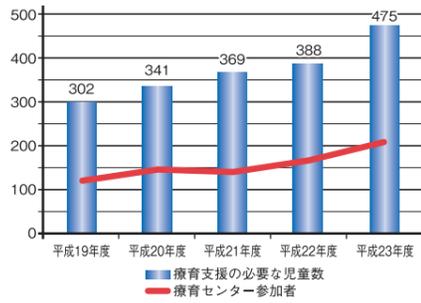
■中心市街地拠点整備事業の説明会

- 自由にご参加ください。
- とき 2月19日(水)午後7時～8時30分
- ところ 市民会館

特集1

賑わいへの新たな一歩

本市の療育が必要な児童数の推移
(2010および2013福祉のあらしより)



■4カ所での支援を集約
近年、発達に心配や遅れのある子どもの相談が増えており(左表参照)、今後も増加するの見込まれます。

■図書室機能も整備
近隣の昭林公民館に図書室がないため、同センターに公民館図書室の機能として「地域交流図書コーナー」を併設します。

■平成30年度に開設予定
現中央図書館を平成29年に閉館し、所蔵資料などを中心市街地拠点施設の「図書情報館」へ引越す予定です。同館の開館後に、現中央図書館を改修し、平成30年度に「(仮称)子ども発達支援センター」を開設する予定です。

現在の中央図書館は、開館以来、約28年が経過していますが、建物はまだ十分に使えます。そこで図書機能移転後の平成30年度に、現行施設を利用して「(仮称)子ども発達支援センター」を整備します。

「(仮称)子ども発達支援センター」では、市保健センター、療育センター(市総合福祉センター内)、市教育センター、サルビア学園で実施している相談・発達支援・療育・通園の部門を一カ所に集約。発達に心配や遅れのある子どもの支援を一元化する考えです。

図▼子ども課
(☎71)2228)

子育てへのもう一歩 中央図書館を発達支援の拠点に



今年度で25カ所の南吉壁画が完成しました。



■まちなかでウォーキング
まちを歩くことは、健康になるだけでなく、まちの賑わいにもつながります。
市街地などに「健康の道」と題したモデルコースを、5コース設定しています。散歩やイベントにご活用ください。

●ごんぎつねコース 新美南吉の詩碑をめぐるコース(6.3km)
●リス・ゾウ・カモコース 野小学校周辺の遊歩道をめぐり、1.4〜4.4kmのコース
●その他 市内18カ所での歩け・ランニング運動(4月〜10月)や、歴史をめぐるコースもあります。詳しくは、市公式ウェブサイト内「ウォーキング」のページをご覧ください

図▼市保健センター
(☎76)1133)

健康へのもう一歩 歩きたくなるまちづくり

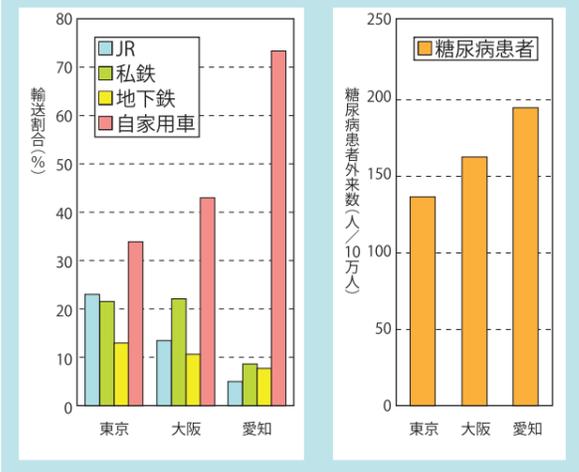
「(仮称)子ども発達支援センター」のイメージ



地域交流図書コーナー
●昭林公民館の図書室機能

※写真は現在の中央図書館

東京・大阪・愛知における自家用車の利用と糖尿病患者数



▲為本浩至氏(自治医科大学)の研究データ
自家用車の利用率に比例して、糖尿病患者数が増えており、環境因子の影響もあると言われている。(肥満と糖尿病, 8:923, 2009より引用)

愛知県は、生活習慣病の危険性が高い!
自家用車の利用数に比例して、糖尿病患者が多くなるデータがあります(左表参照)。毎日を生きて暮らすために、今より10分多く体を動かして、健康寿命(※)を伸ばしましょう。
体を動かすことで、生活習慣病や認知症、うつなどの危険性を下げることができます。また、骨や関節の病氣、筋力や平衡感覚の低下による転倒・骨折を防ぎ、自立した生活を



続けることにもつながります。
※健康寿命 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと(厚生労働省「健康日本21(第2次)」より)